

東北地方 1か月予報

(7月10日から8月9日までの天候見通し)

平成16年7月9日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

期間の前半は前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いですが、期間の後半は太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並、3~4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 7月10日(土) ~ 8月9日(月)

1週目 : 7月10日(土) ~ 7月16日(金)

2週目 : 7月17日(土) ~ 7月23日(金)

3~4週目 : 7月24日(土) ~ 8月6日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は7月16日

3か月予報：7月22日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	22.1	156.5	161.3	20.4	21.4	23.1
新庄	23.3	177.6	170.8	21.6	22.8	24.3
若松	24.3	149.6	187.8	22.8	23.8	25.2
深浦	22.4	148.1	186.9	20.7	21.9	23.4
青森	22.3	108.4	187.5	20.4	21.6	23.3
むつ	20.8	116.9	159.9	18.9	20.1	21.8
八戸	21.5	110.6	177.5	19.5	20.7	22.6
秋田	23.8	168.6	186.0	22.0	23.3	24.7
盛岡	22.8	166.9	155.2	21.1	22.2	23.7
宮古	21.2	135.0	160.4	19.3	20.4	22.2
酒田	24.2	173.5	200.5	22.4	23.7	25.2
山形	24.2	142.1	172.2	22.5	23.6	25.2
仙台	23.2	153.5	144.5	21.4	22.5	24.2
石巻	22.5	118.6	164.2	20.7	21.8	23.4
福島	24.6	139.9	150.2	22.9	23.9	25.6
白河	22.9	186.3	146.4	21.5	22.4	23.6
小名浜	22.7	116.2	174.9	21.2	22.2	23.4

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.7	76~116	91~112
東北日本海側	-0.5~+0.6	79~117	92~111
東北太平洋側	-0.4~+0.9	76~117	91~116

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.8~+0.8	-0.8~+1.1	-0.4~+1.0
東北日本海側	-0.7~+0.6	-0.7~+0.9	-0.6~+0.8
東北太平洋側	-0.9~+0.9	-0.8~+1.2	-0.3~+1.0

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、それぞれの階級が実際に起こると予想される割合を表しています。信頼性の大きい予測資料が得られた場合には気候的出現率(階級の定義から各階級とも同じで33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、信頼性が小さい場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年7月9日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(7月10日~8月9日):

期間の前半は前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いですが、期間の後半は太平洋高気圧に覆われ平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(7月10日~7月16日):

期間の前半は気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の降る所がある見込みです。期間の後半は高気圧に覆われ概ね晴れるでしょう。

平均気温は平年並ですが、期間の中頃には最低気温が平年より低い見込みです。

2週目(7月17日~7月23日):

前線や低気圧の影響で平年と同様に曇りや雨の日が多いですが、太平洋高気圧に覆われて晴れる日もあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(7月24日~8月6日):

太平洋高気圧に覆われて平年と同様に晴れの日が多いですが、オホーツク海高気圧の影響で天気のぐずつく時期があるでしょう。

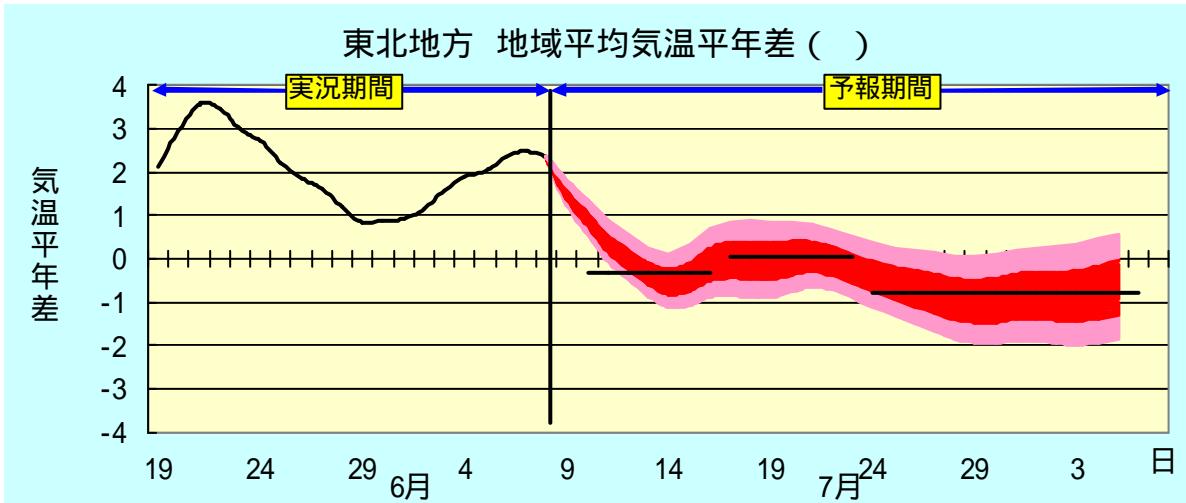
平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.3日	2.7日	3.5日	8.1日
東北太平洋側	12.5日	2.3日	2.8日	7.4日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目を「平年並」、3~4週目を「低い」と予想している。予報は、その他の資料から3~4週目を「平年並」とする他は数値予報どおりとする。
なお、数値予報の信頼度は小さい。

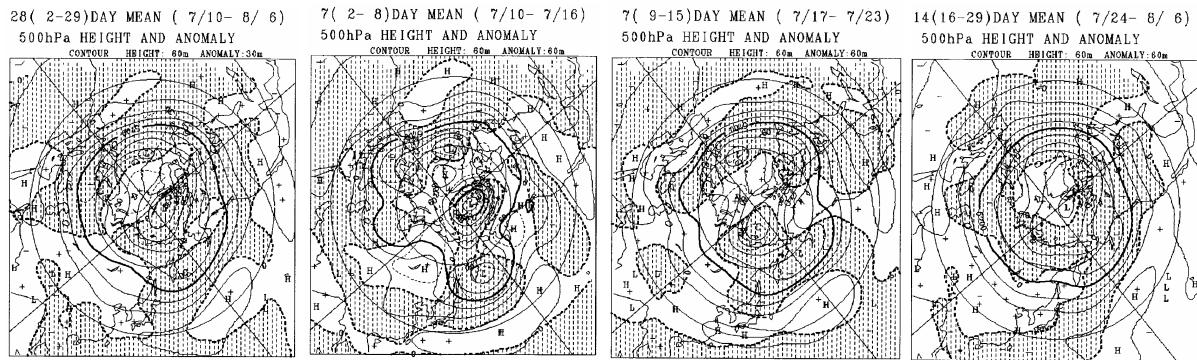


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、西日本は正偏差に覆われるが、東日本は負偏差に覆われる。オホーツク海付近も広く負偏差に覆われ、オホーツク海高気圧の影響は小さい。

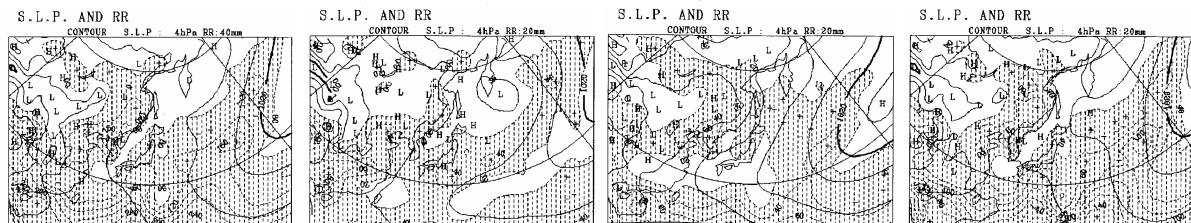
1週目は、日本の南の亜熱帯高気圧が西に張り出しが、カムチャツカ半島付近の低気圧は強く、日本付近も広く負偏差に覆われる。2週目は、日本の南の亜熱帯高気圧が強まり、カムチャツカ半島付近の低気圧は弱まって、負偏差は北日本どまり。3~4週目は、日本の南の亜熱帯高気圧が弱まり、オホーツク海には気圧の尾根も予想されるが、共に予想のばらつきは大きい。



地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧が日本付近へ張り出しが、日本の南への張り出しは弱い。オホーツク海高気圧もカムチャツカ半島の南に見られる。日本の南海上にはまとまった降水域が広がる。

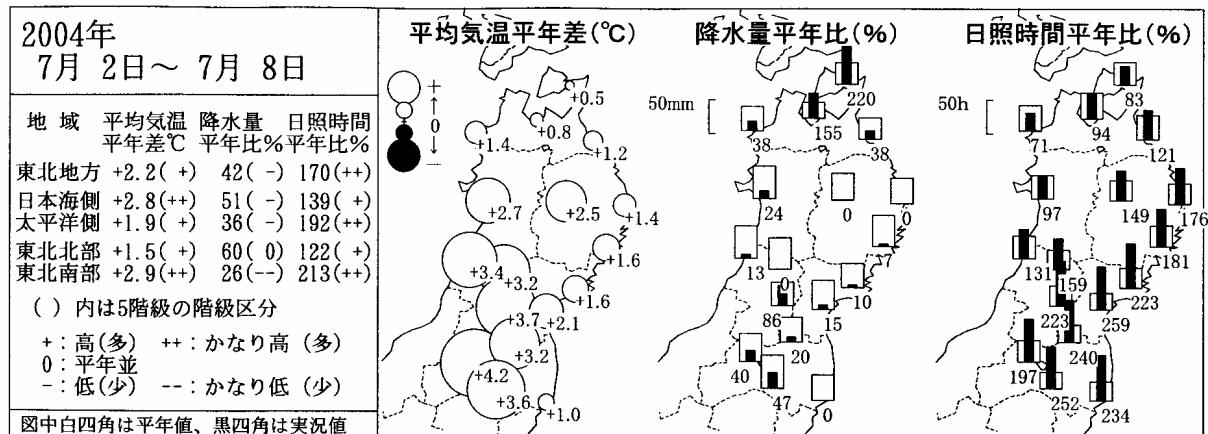
1週目は、太平洋高気圧が日本の南に強く張り出す。日本付近は東西にのびる降水域に覆われる。2週目は、太平洋高気圧が日本付近へ張り出しが、北日本には降水域がかかる。3~4週目は、千島近海に高気圧がみられ、太平洋高気圧の西への張り出しは弱い。ただし、まとまった降水域が日本の南海上に広がるなど、予報のばらつきが大きい。



4. 最近1週間(7月2日~7月8日)の天候の経過

この期間は、高気圧に覆われて概ね晴れの日が続いた。期間の後半は、南から暖かい空気が流れ込んで真夏日となる所が多く、寒冷前線の通過や大気の状態が不安定となつたため各地で雷雨となつた。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)